

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700091		
法人名	平和ヘルスケア株式会社		
事業所名	平和の里 グループホームこほく		
所在地	千葉県我孫子市中峠2964-1		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町 3-7-10		
訪問調査日	平成27年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢によって自立した生活が困難になった利用者様に、家庭的な雰囲気の中で食事や入浴、排泄等の日常生活や季節行事、アクティビティを行なうことにより、安心・充実した生活を送れるように支援しております。季節ごとの作品作りや行事では、利用者様に季節感を感じていただくために、その時々にあったものを計画し実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年8月に開設した2ユニットのグループホームである。「平和の里宣言」を掲げ、管理者を中心に全職員が一丸となって、利用者ひとり一人の意向に沿った支援を目指している。職員の離職が少なく、連携もよくとれていて、利用者との馴染みの関係も築けている。併設のケアステーションとは、日常的に合同でレクリエーション活動等を実施し、利用者同士楽しく過ごせるよう努めている。今年からADL低下予防のため、チューブトレーニングを実施している。歌、踊りやお化粧等のボランティアの訪問も多い。地域への貢献として、地元の中学校の職業体験受け入れや市と連携して地域の人を対称にした「健康体操教室」等も企画している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『平和の里宣言』を玄関に掲示し、いつでも職員やご家族が確認できるようにしている。	「平和の里宣言」が玄関に掲げられ、職員全体の行動指針となっている。入職時研修では、管理者が理念に対する意識付けを行っている。開設以来の職員が多く、連携もよく、理念も共有され、実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の健康体操教室や定期的なボランティアを呼び、地域との交流を図れるようにしている。また、近所のスーパーに買い物に行ったり、施設周辺を散歩したりしている。	散歩の時に近所の人と挨拶を交わしたり、湖北地区社協祭りに参加して地域との交流を深めている。毎月歌や踊りのボランティア、お化粧ボランティアの訪問がある。地元の中学校の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談の看板を設置し、地域の方が相談しやすいように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を実施しており、利用状況や施設内外の活動を報告し、意見交換を行なうことでサービスの向上に努めている。	ケアステーションと合同で、市の高齢者支援課職員、包括支援センター職員等も参加して開催される。内容は活動等の報告に加え、参加者との意見交換を行い、出された意見をサービス向上に活かしている。	利用者家族にホームの取り組みを報告し、情報交換したり、家族が外部の方に発言する良い機会でもあるので、引き続き家族の参加を促す取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に運営推進会議に参加していただき、実情や取り組みを伝えている。	運営推進会議での情報交換に加えて、市と連携で健康体操教室を開いたりして、協力関係構築に取り組んでいる。3ヶ月毎に実施される市の地域密着型事業所分科会にも出席し、情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修を修了し、施設でも内部研修を行なうことで拘束をしないケアに取り組んでいる。安全面を考え、正面玄関の施錠は常に行なっている。	身体拘束しないケアを徹底するため、管理者による内部研修に加えて、定例会で話し合いもしている。安全確保のため通常玄関は施錠しているが、利用者の状態を見守り、外出したような時は散歩に誘うなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の際などに、身体的虐待のほか、言葉などによる心理的虐待についても話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加することにより、制度について学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にしっかりとご利用者やご家族に説明を行なっている。また、不安や疑問点についてもその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度介護相談員が来訪し利用者の意見や要望を聴き取り、管理者や職員に説明していただいている。また、運営推進会議への参加をご家族にも促し、外部の方に意見などを表せられるように努めている。	毎月ホームでの活動内容等がわかる写真付きの報告書を家族に送付し、意見、提案が言い易い環境づくりをしている。意見は面会時や電話連絡時に確認し、利用者毎にパソコンに入力し、職員で共有している。職員会議等で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は職員会議を行ない、職員同士の意見交換をすることで運営に反映させている。	日常的に意見は言いやすい環境である。職員会議でも活発に意見交換が行われている。欠席者には、議事録が回覧される。出された意見は会議で検討し、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与、技能手当の他、各職員と接し意見や要望などを個々に話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の職員会議の際に、外部研修の報告や内部研修を行なうことで、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所分科会会合に参加し、各事業所ごとの運営状況や問題点などの話し合いを行なっている。その他、介護支援専門員連絡協議会などにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、困りごとや不安について確認し、なるべく本人が安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族としっかりと話し合いを行ない、不安や疑問があればその都度対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の把握を行ない、ご本人とご家族が必要とするサービスを受けられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場におかず、洗濯物をたたんだり、食器拭きや掃除をしていただいたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に受診対応をしていただいたり、必要なものの購入を依頼することで、ご本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所に住んでいる方に面会にきていただいたり入居前から利用していた美容院に通っていただくなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	利用者は時々自宅に外泊したり家族と外出に出かけるなど、家族との絆も大切にしている。馴染みの美容室に通いリフレッシュできている方もいる。併設のケアステーションに通って来る知り合いもでき、趣味の手芸やレクリエーションを一緒に楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や相性を把握して、座席などを考慮し楽しんで過ごしていただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後でも、何か気になることがあればいつでも相談していただけるように説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族等から以前の生活の様子や暮らし方を確認し、意向や希望にそって過ごせるように努めている。	毎日の生活の中で、一人ひとり何をしている時が、一番生き生きとして幸せそうかを職員は把握している。言語障害等で言葉にできない方には、顔の表情や、仕草で思いや意向を汲みとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族等から情報を収集し、ケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人のケース記録に1日の様子を記入し、職員間で申し送りをする事で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別記録や日々の様子をもとに、各職員や利用者、ご家族から意見をまとめて介護計画を作成している。	個人記録を基に本人、家族の意向や職員の意見を集め一人ひとりの思いに寄り添い、実践可能な介護計画を作成している。毎月カンファレンス、モニタリングをし必要な時は計画の見直しがされる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入することにより、職員間で情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な機関と連携を図れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にご家族対応で、ご本人やご家族が希望するかかりつけ医に受診していただいている。ご家族が対応できない場合は納得が得られた上で訪問診療を実施している。	かかりつけ医受診で、家族が対応できない場合は、了解を得て主治医の事業所への訪問診療が行われている。訪問歯科、訪問マッサージと日常の健康管理は適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化について報告、連絡、相談を行ない、適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に面会し情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、事業所のできることでできないことを十分に説明し、家族等と話し合いを行なって他施設等の申し込みを勧めている。	重度化や終末期の支援については、事業所のできることでできないことを十分に説明している。特別の治療が必要とされる時は医療機関に移って頂くことを原則としているが、家族の思いにより事業所で終末期を過ごした方も有る。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し職員がいつでも見られるように準備している。また、内部研修などを行ない、実践力を身に付けられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練や防災訓練を実施し、緊急時に対応できるように努めている。	消防署立ち合いの消防訓練や防災訓練を利用者も参加し実施している。新館増築の際スプリンクラーや防火扉、大型パッケージ型消火装置が導入された。利用者も率先して通報シュミレーションに参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については個人情報保護法に基づき対応している。言葉かけや対応については尊厳を傷つけないように努めている。	職員は常に感謝の心を言葉として出すことを心掛けており、一人ひとりの人格を尊重した声掛けが行われている。利用者が自然に自己決定できるように言葉を選んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を伝えられるように声かけや会話を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間で体操などを促しているが、ご本人の意思を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理美容があり、希望を聞いて実施している。また、ご家族対応で通いなれた美容院などにも行っていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備と片づけは、できる方に促して利用者と職員と一緒に実施している。職員と利用者で楽しく食事できるように一緒に食べている。	食事は広いリビングで皆と一緒に摂り、食事の準備や片づけを、自ら手伝いができるように、声掛けされている。毎月の「料理クラブ」では昼食やおやつの手作りを楽しんでいる。目の前で板前さんの握るお寿司や手打ちそばの実演は大好評であった。	いつまでも自分の口で美味しく食べられるよう、食前の嚥下体操、食後の口腔ケアの継続を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事摂取量の把握を行ない、個別記録に記入している。本人の能力に応じた食事形態を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行なっている。毎週月曜日に訪問歯科に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して、排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように努めている。	一人ひとり排泄パターンを記録し全員トイレでの排泄が出来ている。記録を基にパットから布パンツに変わった方も有る。声掛けは他の方に解らないように、さりげなくプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量の把握を行ない、排便の有無を確認している。日中なるべく体操や散歩などを促し、体を動かせるように努めている。医師とも連携し内服薬でも調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人ごとの希望により入浴の曜日を決定している。その日の体調や本人の希望で日ごとの変更を行なっている。また、利用者の要望に合わせて回数も変えている。	事業所内には大浴場と個浴が有り、その日の体調や本人の希望で無理強いせず、自由に時間を選んで入浴できている。浴室は床暖房でヒートショック対策が採られ快適な入浴を楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活スタイルに合わせて対応している。体操の開始時間などは目安として決まっているが、本人の状況によって参加不参加を選んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明を入れており、いつでも閲覧できるようにしている。内服確認表を活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の得意な方には洗濯物たみなどの役割を持っていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候に合わせて近隣の公園や施設周辺の散歩を行なっている。また、外出行事としてお花見なども行なっている。	天気の良い日は近くの公園や周辺の散歩をしたり、ベンチで外気浴をしている。外出行事は年間で計画され、季節ごとの楽しみで、生き生きとした楽しそうな様子はDVDに編集され、家族にも届けられている。うなぎ屋さんやファミレスへ全員が行けるよう何日かに分けて出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に2～3回程度、近所のスーパーなどへ買い物に行き、ご本人の欲しいものを購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人個人の希望に沿って対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂などの共有部分に季節ごとの作品や行事などの写真を掲示することで、季節感を味わっていただけるように努めている。	明るく広々としたリビングはちぎり絵の大作と家族から提供されたひな人形が飾られ華やかな季節を感じさせている。床暖房の柔らかな暖かさの中、手芸をしたり、楽しい会話が飛び交っている。毎週の健康体操には近所の方の参加も有り、顔見知りも増えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には食事席以外にもソファなどを配置し、個人個人で好きなところに座っていただけるように努めている。また、居室内を自由に行き来していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、馴染みのものや使い慣れたものを持ってきていただけるように説明している。	居室の壁は認知症の方の刺激にならない淡い2色の壁紙が張られ、落ち着いたある部屋には使い慣れた家具が置かれている。ドアには自分の干支と今年の願いを自筆で書いた絵馬の表札が掛り、そこに住む方の思いが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力に応じて支援している。		